



黒瀬 珂瀾 選

喜寿すぎてどんな景色が見えるだろう蛇行しながらの一本道で 横浜市 杉本 恭子

【評】どんなにあっちこっちに行っても、人生とは結局は一本道。なるようにしかならないのだ。だったら気楽に開き直って、未知の景色を楽しみむいで生きたいものです。

診察券を財布に戻す指先に医師の低音なほ残り
藤井寺市 糀谷 終一

【評】診察の後に会計も終えた。それでも頭の中では、先ほどの医師の言葉が繰り返される。衝撃的な診断結果だったのだろう。低音という描写に、深刻さが滲み出ています。

赤紙は誰が決めたの二人目の父も戦火に戻らぬ
東京都 榎 正好

【評】実父と継父を続けて戦争で失われたのか。人を戦地に送るのは一体誰か。戦争を遂行する為政者たちは戦地に赴くことはない。弁慶の六方のごと垣を越ゆ主亡くし隣家の柿の木 佐野市 中野 忠

夫の写真の一段下に犬二匹の額縁置いて庭の花
札幌市 三浦公佐子

真夏日の改札口を出て見れば三社祭の神輿が揺
東京都 影山 博

失語した翁のために付き添いて床屋でカット指
丸亀市 服部 芳郎

激しさはゆうべの雨に流れしや露たつぷりの真
宇治市 浜口富美子

紅の椿 武者人形の前に思ふか逝きし子を小さくなつた
神奈川 角田 兼勝

妻の丸き背 お財布の不安をパンで満たす夜果てなく昏き下
兼勝

力食いすすむ 泉大津市 のぶつばき

◆投稿規定◆ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◆他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◆毎週月曜日に掲載 右の影絵はらっきょう